

広大な農地

- 経営耕地面積は95,246ha(2020センサス)となっています。
- 遊休農地の面積は7,183ha(R2)で全国1位となっており、効果的な活用が望まれています。
- 遊休農地を活用し、そばやアスパラガス、飼料用作物等に活用されている事例があります。
- 市町村、農業委員会と協力し円滑な農地確保や再生活用を支援します。

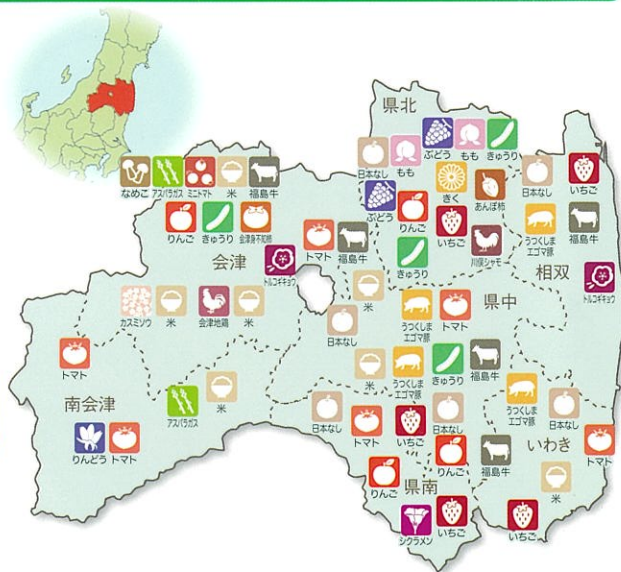


多彩な農作物が栽培可能

- 福島県は多くの作物の南限と北限が重なる位置にあります。
- 冬の日照に恵まれた太平洋側気候、気温の日較差の大きい日本海側気候、冷涼な高原気候と、多様な気象条件を活かして多彩な農作物が生産されています。
- 太平洋側の浜通り地方では、恵まれた気象条件を活かして大規模な園芸施設が多数立地しています。

■主な作物作付面積の全国順位(R2)

- 1位 夏秋きゅうり
- 2位 もも さやえんどう さやいんげん
宿根かすみそう
- 3位 日本なし
- 4位 はくさい りんどう トルコギキョウ
- 5位 そば アスパラガス 夏秋ミニトマト



本県における参入事例

■事例1

株式会社エガワコントラクター（喜多方市）

○参入の経緯

建設会社である親会社は、直播栽培が注目されるようになったことを契機に大型トラクター及びレーザーレベラー等を導入し、平成19年に農作業受託事業を開始しました。

平成21年に農業生産法人を設立し、農業分野へ参入するとともに、「耕作放棄地再生利用緊急対策事業」を活用して、建設業で培った農業土木の技術を生かし、約30haの遊休農地の解消に取り組みました。

○事業展開

株式会社エガワコントラクターは、「農業生産部門」「農作業受託部門」「食品開発販売部門」の3つの事業を行っています。

「遊休農地等保全対策支援事業」などを活用して解消した遊休農地で有機農業を目指し、アスパラガス(60a)やニンジン(80a)、なつはぜ(75a)等を栽培しています。

また平成24年には農林水産省より6次産業化・地産地消法の総合化事業計画認定を受け、なつはぜを使用したサイダーの開発・販売やパッケージデザインの工夫を行うなど、6次産業化の取組も強化しています。(令和元年度販売2,400本)

県内外のコミュニティーづくりにも力を入れており、農業者や異業種等との交流・連携を大切にしている農業経営を目指しています。



▲販売品（アスパラガス）



▲土作り作業

■事例2

株式会社福島しろはとファーム（楡葉町）

○参入の経緯

福島県(浜通り)の復興に寄与したい白ハト食品工業(株)の意向により、平成30年にグループ企業である(株)しろはとファームが楡葉町に参入しましたが、生産拠点の強化を図るため、平成31年4月に(株)福島しろはとファームが設立されました。

さつまいもの生産から販売まで一貫した6次産業化をグループで実現し、地元楡葉町を中心とした新たな産地化を目指しています。「食を通じた復興支援」を図るため、「さつまいもで楡葉を“笑顔”にするプロジェクト」を計画し、(株)福島しろはとファームは生産拠点の事業者としてさつまいもの生産に取り組んでいます。

○事業展開

平成29年楡葉町を主体に約1.5haでさつまいもの試験栽培をスタートしました。(株)福島しろはとファームとなり、令和3年度には36haに拡大、楡葉町全体では45haのさつまいも産地となりました。将来的には法人として70haまで拡大したい意向です。

新たなさつまいも産地を目指す楡葉町では、福島再生加速化交付金を活用し国内最大級の「甘藷貯蔵施設(受益面積50ha)」を整備し、支援に当たっています。



▲収穫されたサツマイモ



▲サツマイモの収穫（コンテナ）